伝えよう・広げよう・キリストの心を

共に生きる

聖家族有志会報

社会と教会
生活と信仰
平和・人権
分かち合い

No.16

編集／〒806-0049　北九州市八幡西区穴生1-8-10 アドラック内　／瀬下幸弘

きさらぎ
如月
2
2012

司祭と信徒が「共に」語り合うことが大切

北九州地区の特徴の一つに、信徒と司祭の皆さんが同じ目線で語り合う懇談会が毎年継続して行なわれている点です。今回は、福音をどのように伝えるかの観点から①門司教会の街頭募金の取組から見えたもの②御受難修道会来住神父による「イエス・キリストを知らせるため」の企画例③外国人問題に長年取り組んだ岩本さんの発題からスタートしました。

北九州信徒協主催

福音宣教理解と実践

1／8（日）小倉教会

門司教会発表
20数年ぶりの、年末街頭募金活動取組について

来住神父の発表
「ある程度親しくなったご近所の人に知らせよう」

門司教会では20数年ぶりに街頭募金活動ができたとのことです。今まで出来なかった理由に、高齢化などいくつかの壁があったようですが、信徒有志として取り組むことになり、のぼり旗、募金箱、チラシなど独自で作成したこと、そしてなによりも「カトリック教会」をアピールできたことが、嬉しかったとのことでした。来住神父は「ご近所のクリスマス」企画例をもとにその特長や招待の仕方などを丁寧に語ってくださいました。岩本さんは、外国人問題に関わった20年間の経験から支援する団体、地域の人々の協力、中学教師の支援の広がりなど話されました。発題者それぞれの角度から見えたものが伝わった懇談会となったようです。７人の司祭が参加されました。

お知らせ

- ◆２月５日（日）教区信徒協 13時30分～（大名町）
- ◆２月11日（土）震災のための祈り（修道院）…13時30分
  「建国記念の日を考える」（細江教会）…14時
- ◆２月12日（日）東日本震災被災者への募金呼びかけ
  英語ミサと交流（黒崎）…15時
- ◆２月13日（月）社会福音部会（テレジア）……19時
- ◆２月17日（金）ホームレス支援炊き出し…13時～
- ◆２月18日（土）ACO年次総会（テレジア）……10時
- ◆２月25日（土）キリスト者九条（西南KCC）…14時
- ◆２月26日（日）虹の会（分かち合い）……ミサ後
  北九信徒協（小倉教会）……14時

特集

震災から１年

池永潤司教（２面）

福島差別を危惧する

平賀徹夫司教（３面）

東日本大震災被災者支援
1月7日,8日の募金額は
50,809円 でした。

CTIC外国人被災者支援センターに送金　２面関連記事

ホームページ開きました→ http://www1.ocn.ne.jp/~tomoiki3/

東日本大震災から一年を迎えて

日本カトリック司教協議会会長　池長　潤

今年2012年3月11日(日)は、東日本大震災から一年を迎えます。

東日本大震災は、17年前の1995年1月17日に起こった阪神・淡路大震災以来の東日本全域にわたる大惨事となりました。来る3月11日(日)には、犠牲となった方々を追悼し、被災地の一日も早い復興を願うミサや祈りの集いを全国各地のカトリック教会で行っていただきますようお願いいたします。

さて、あの2011年3月11日の出来事は、私たちの中で、生涯決して消える事はないでしょう。午後2時46分に起こった大きく長い横揺れに驚く間もなく、次々に送られてくる悲劇的な報道は、直接災害を体験しなかった者にまで、大きな衝撃を与えました。とりわけ大津波は、2万人近くの人々を死に追いやり、人々にはかり知れない災いをもたらしました。また、福島原発事故は、多くの人々の日常生活を破壊し、人々を放射能の不安に落とし入れました。

しかしながら、この大震災によって、人間が支え合うすばらしさにも出会うことができました。大震災のニュースが伝わるやいなや、お隣の韓国では、若い人たちが英語で「私たちは日本を愛しています。日本はかならず試練を克服するでしょう」と書かれたプラカードを路上でかかげている画面がテレビに映し出されました。また、世界中のいたるところから、義援金が寄せられました。そして、原発事故の被害を一刻も早くくい止めるためにと、経験と高度な知識や技術を持つ海外の専門家が惜しみない協力を行い始めました。

さよなら原発1万人集会(福岡市)に参加した沖縄の青年や子どもたち
2011.11.13

国内においては、全国各地の人々が被災地を訪れ、炊き出しやがれき撤去の手伝いなどをしながら、一人ひとりに声をかける心のこもったボランティア活動を行っています。

不条理としか言えない悲惨な現実を目の当たりにして、私たちは国内国外の多くの人々が、被災された方々のために支援しようとする一生懸命な姿に大きな感動と勇気をいただいています。ブータン国王の国会における演説も、被災地とわが国へのあたたかい励ましと支えとして忘れることができません。（中略）

このように、地震と津波、そして原発事故によって引き起こされた悲しく辛い現実から一年が過ぎつつあります。亡くなられた方々が、神のみ手の中に抱かれて、永遠に憩われるように祈り、そして、被災地が一日も早く復興し、被災者の方々が一日も早く元のような生活を立て直せるようにと、私たちカトリック信者は心を一つにして祈りましょう。（以下略）

2012年3月11日

東日本大震災被災者支援関連ニュース

◆1月7日、8日の募金　50,809円 ｝ 外国人被災者支援センターCTICに送金致しました。いつも御協力有難うございます。（1／10送金）

外国人被災者支援センターCTICの近況　[Sr. 高木百世]

今月CTICでは物資支援として、陸前高田市にナッテモブクロ（岩手弁、なんでもぶくろ）を400個送りました。

この袋は、保険士さんが女性の人を訪問する時に手みやげに持参するためのものです。若い人向け、中高年向け、高齢者向けの３種類あり、スーパーの袋より大きめの袋に、化粧品、生理用品、防犯ブザー、懐中電気、季節に合った小物や衣類等、それに困った時の連絡用しおりなどが入っています。今までこの袋は累計で、4,080個送られたそうです。

いつもの皆様のご協力を大変感謝しております。

今後ともよろしくお願い致します。

大震災と原発災害からちょうど１年になります

3月11日（日）集会予定のお知らせ

ご参加下さい

●カトリック小倉教会で祈りの集い　・時間14時～

※詳細未定　決まり次第お知らせ致します。

●さよなら原発3・11北九州集会

・時間／10時～15時　・ところ／三萩野公園（メディアドーム横）

※「さよなら原発」のテーマにそった出店など有ります。

福島差別を危惧するアピール

日本カトリック部落差別人権委員会 委員長 **平賀 徹夫**（カトリック仙台教区司教）

東京電力福島第一原子力発電所の事故で、大気中に放出された放射性物質の量は、広島原爆の168倍相当にも上ります。この放射性物質は、近隣都県に高い線量の被害を及ぼしています。わたしたちが、今まで高エネルギー消費生活を享受してきたことを省みるならば、今回の放射能被害は、福島県周辺の住民のみならず、日本全体で背負わねばならない問題なのではないでしょうか。

九州の福岡市内で開店予定だった産地直送品の販売店「ふくしま応援ショップ」が出店を取りやめました。「九州に福島の放射能を持ち込むな」とのメールや電話による反対があったためとされています。さらに、愛知県の「福島製打ち上げ花火」拒否など、福島の排除は続きました。 京都の「五山送り火」の件を考えてみましょう。岩手県陸前高田市の被災松でつくられた薪が「放射能が少しでもあるならダメだ」と拒否されました。 そこには、見えない放射能とその拡散への恐れが、「亡くなった人々の冥福を祈る」という被災地の人々の思いをも踏みにじってしまう、あまりにも悲しい断絶が表れています。

いわゆる「安全神話」のもと、徹底した情報の隠ぺいと統制によって、原子力運用の危険性と原発事故の実態が市民レベルに行き渡ることが妨げられて、こうした排除・断絶を引き起こすことになりました。放射能が拡散していくように、忌避による排除・差別が広がりつつあるのです。（中略）

福島を拒んでも事態がよくなることはありません。そして、このような高い放射能のある故郷に、苦しみを負って帰還していく福島の人たちに連帯し、寄りそって受け止めることで、初めてわたしたちは、今、何を選ぶべきなのかに気づけるのではないでしょうか。拒まれなければならないのは、福島ではなく、福島の人々との連帯を妨げるわたしたちの排除と差別、そしてこの事態を生んだ原子力政策なのです。

原発は都会に作れない立地差別を前提とし、建設過程では賛否両側に住民を分裂させる人間関係破壊の働きをし、一度稼働し始めればその維持運営においては多大な被曝労働者を生み出し、かつ膨大な核分裂生成物、つまり「死の灰」を生み出し続けます。（中略）

わたしたち日本カトリック部落差別人権委員会では、福島の子どもたちが避難先で差別を受けたり、将来結婚差別を受けたりすることなどがないようにとアピールします。

（※昨年末に発表されました。）

援助修道会 **修道院よりお知らせします。**

２月11日:イチイチ祈りの会をいたします。

場所は**修道院聖堂、2月11日:午後1時半**からです。
どなたでもお出でください。

イチイチという名前は、11日に因んでつけました。
３月１１日:東北大震災
９月１１日:(ニューヨーク貿易ビル爆破事件の日)

1月22日(日) **共に学ぶ「国是と信教の自由」**

豊津教会と行橋教会で学びに24名、パンフ82冊が完売しました！

豊津教会

「信教の自由の大切さを学びませんか」その呼びかけに、豊津11名、行橋13名が参加し、浦上四番崩れのこと、靖国神社の成り立ちなどを学びました。「このような時を待っていました」と喜びの声を頂きました。（カトリック20条の会が出向きます。声をかけてください。瀬下）

行橋教会

信徒協 聖書講座年間スケジュール決定

- 4月15日(日) 14:00～16:30
- 6月17日(日) 14:00～16:30
- 9月30日(日) 14:00～16:30
- 11月18日(日) 14:00～16:30

無料です。場所は後日お知らせ

信徒協 年末愛の募金 13教会総額

1,551,819円

街頭活動は7教会で、そのうち門司、水巻、黒崎教会は、信徒による自主参加でした。

市民と共に

「建国記念の日」について一緒に考えませんか

私にとって2.11(建国記念の日)とは

2月11日(土)14時～　細江カトリック教会

パネリスト

泉　哲朗(浄土真宗光明寺住職)
名古屋義弘(日本キリスト教会下関教会牧師)
小勝奈保子(日本福音ルーテル教会下関教会牧師)
瀬下　幸弘(カトリック教会信徒)

キリスト者・九条の会

平和メモを作成

1枚1枚に、憲法や聖書の言葉、仏教関係の平和宣言、ヨハネ・パウロ二世の広島アピール等が書かれている価値あるメモ用紙です。

分かち合いのとき

虹の会

次回、2月26日

1月22日 14名参加

「教皇“世界平和の日”メッセージ」をもとに分かち合いました。今回、久留米教会で「分かち合いの場」を創ろうと歩まれている3人の方が参加してくださり、感想をいただきました。

「初めて黒崎教会の虹の会に参加させて頂きました。平和の事、家庭や職場での悩み、原発問題等、色々なお話が出ましたが、皆さんキリスト者としてどう生きるべきかを真剣に考え、一人ひとりの発言を自分の家族のように温かい気持ちで受け止めていらっしゃり、教皇様のメッセージにある『平和はわたしたちが築くべきもの』『わたしたちは真の意味で平和を作り出す者となるために共感、連帯、協力、兄弟愛について自らを教育しなければなりません』ということがこの虹の会で実践されていると感じました。」　森　智子

青年の報告

昨年８月に開催されたワールドユースデイに参加した大学生、有吉優里さんの報告です。

WYD（ワールドユースデイ）in Madrid に参加して

私は今回WYDがあることを知ったとき、すぐに参加しようと決めることはできませんでした。なぜわざわざスペインまで行くのか、行って何が得られるのかが分からないなら日本で他の体験をした方がいい、と思っていました。しかし、青年会の先輩方に「一度行ったら分かるから！」「行きたくても行けない人がいるのだから！」とすすめていただき、行ってみようと思いました。 実際に参加してみると世界中からとても多くの人が参加していました。国をあげての大会で、とても日本では開催できないだろうと思いました。神様によって国境を越えて集められたすべての人々の互いに喜びあう姿を目のあたりにし、自らの信仰が強められるような感じがしました。 また、遠く離れた国で、日本中から集まった仲間と出会い分かち合いを繰り返すうち、それぞれの信仰への熱い思いが伝わってきて、感動しました。

今回のＷＹＤに参加して、教会に行っている自分と大学や家庭など普段の生活における自分は違うのではないか、もっと生き方の中心にキリストを位置付ける人間になっていきたいと強く感じました。

読者投稿

“共に生きる” アクセス回数上昇

「共に生きる」のホームページを初めて開きました。以前のものも載っていましたし、２～３日後に開いたら、アクセス回数がグ～ンと伸びていましたね。きっと多くの人が見ておられるのでしょう。続けてくださいね。（Y）

年末愛の募金報告に対する司祭の貼り出し文について、一言言わせてください。

ツィッター

インターネットで見ました。あまりにもひどいと思い、ツィッターに投稿させて下さい。確認させていただいたことを書きます。10万4,050円は、ほとんどが教会敷地内で集められたお金です。だから「街頭募金」でなく「愛の募金」として報告しているとのことです。ほとんどの信者さんと当の司祭も募金していますので、司祭は御自身と募金された信者の皆さんに向かって“愛がない”と言っているのと同じです。恥ずかしく思わないのでしょうか。また、黒崎教会の名前と旗を許可なく使っているように書いてありますが、のぼり旗も募金箱もチラシも許可証（警察への申請書類）もハサミ、テープなどすべてが「黒崎教会信徒有志の会」の名前がありました。これが“教会法”に触れるのでしょうか。確かめもせず活動された人達を批判するのが司祭の役目ですか。私怒っています。でもＳさん達はとっても冷静ですね。（M）

シスターからのたより

みなさんの作っている会報、素敵です。楽しみに読んでいます。神の国にいのちを吹き込んでいるのは神さまの「こころ」を生きようとしている小さな人々ですね。それをみなさんの仲間たちの中に感じます。そして私もできることを精一杯しなければ…と思います。祈りのうちに（R・O）

九条の会の“平和メモ”いいですね

すごいと思いました。こんな形で聖書の言葉も伝えていけるなんて驚きです。持ちやすいサイズですし、アイデアがいいですね。（一読者）

見～つけた。一番居心地のいいところ！

「なんでそこがいいの？」高みの見物ですか。ただし降りる時は、走らないでね。（子）

開いてみて下さい。このアドレスを。

http://tomasmaria.mo-blog.jp/blog/

命は差し出すもの？

則松地区　高瀬　紀子

大きな出来事があった時ほど、要注意！といわれますが、日本が東日本大震災で揺れるなか、２０１１年11月に４年間凍結されていた憲法審査会が始動しはじめました。東日本の復興や原発問題が最優先とされるこの時期に、なぜ憲法改正原案、発議を審議し、国民投票への道が整う機関が動き始めたのでしょう。

この急速な改憲への動きについて、「九条守りたい」では弁護士の後藤景子さんをお迎えしてお話をうかがいました。

後藤さんは２０００年１月からの衆参憲法調査会での「憲法を変え、戦争のできる国にしたい」という各論者の意見を踏まえ、憲法九条に基づく平和主義こそ世界に輸出したい、世界に誇るべき輝きを持ったものだと言われ、「戦争をしない、武器を持たない」とする九条があるからこそ、日本は独自の人格を持った国として、国際貢献が出来るのではと言われました。

そして自ら被災地に行かれた体験を話され震災後の障がい者の現状や、イラク違憲判決裁判、ＴＰＰ、原発問題、日中米関係など多岐に渡ってお話されました。うかがう内に、すべての事柄に対して一貫して「人の命の尊厳を守りたい」という思いが伝わってきました。

戦争（兵役を課す）とは「国に命を差し出せということでは？」と言われ、非常時になればなるほど、個人の自由が公によって圧力をかけられることを挙げられました。憲法とは国民の命を守るもので、国民に義務を強いるものではなく、逆に国家権力を封じ縛るものだという事がよくわかりました。

「弱い人たちが本当の気持ちを言えなくなってはなりません。権力を持った人達が人の命を大切にするということを忘れてなりません。一番小さくされた人たちの人権が守られてこそ、すべての人にとって幸せな世界になるのではないでしょうか」。といわれた言葉はとても印象的でした。

私は３度の被曝を受けた国として、戦争や核競争が人類を破滅に追いやる事が明らかになった今、武力ではなく対話で平和を創ろうとする福音的な日本国憲法こそ証しであり、日本国民が自ら失ってはならないと強く思いました。

福音の精神である非暴力による平和を望む「九条守りたい」は毎月第４土曜日に西南ＫＣＣで「キリストの平和」を分かち合っています。どなたでも自由に集えますのでどうぞおいでください、お待ちしています。

2011年12月17日於北九州

「原発はいらない講演会」

講師／京都大学物理学教室　準教授 小出裕章先生

CDができました

一枚　300円

日本キリスト教会長老 上西創造さんの感想

“すばらしいの一語に尽きます。一見一聞の価値あります。”

お求めの方は、FAX 093－622－1290

編集後記

先月号にご紹介しましたご病人が1月上旬に帰天されました。その頃からでしょうか、「共に生きる」ホームページのアクセス回数が急激に増えました。病床にありながらも「共に生きる」紙を目を輝かせながらを読んでいた彼女の祈りが届いたのかも知れません。有難うございました。

前号の特集「私にとってのクリスマス」を読まれた（キリスト者でない）方々が、コピーし研修に使ったそうです。11月号は北九州市庁舎内でも回覧されました。通じ合う心があるからこそ広がっているのではないでしょうか。社会と教会のありようを紙面に映し出す時、是々非々のスタンスを持たなければ、よいことだけを伝える「大本営発表」に陥ります。いつか来た道だけは避けたい。（瀬下）